



第6回フィラデルフィア-ジャパン健康科学ダイアローグ

海を挟んでの国際拡張：独自路線か？ それともパートナーを組むか？

2005年6月18日(土)

午前 8:00

受付・朝食

午前 8:30 ~ 午後 5:00

プログラム (昼食を含む)

午後 5:00 ~ 午後 6:30

カクテル・レセプション

プログラムの概要

太平洋を挟んで存在しているアメリカと日本のバイオテクノロジー会社は双方とも国際化に向けての拡大に直面している。アメリカの企業はアジアに目を向けているし、日本の企業は北米とヨーロッパへの進出を考えている。その際にまず最初に考慮されるのが、独自の行動ではなく、パートナー探しである。しかしパートナーを持つということは将来的なリスクを少なくはするが、半面において独自で挑戦して成功した場合の見返りは比較できないほど大きい。今回はこの相反する2つの戦略を実行する場合に起こってくる様々な課題を検討する。

司会：ペッパー・ハミルトン法律事務所 弁護士 ニール・タナー

開会の挨拶

在ニューヨーク総領事館首席領事
ドレクセル大学総長

佐藤博史
コンスタンチン・パパダキス

午前の基調演説

メルク ヒューマンヘルス部門プレジデント

デービット・アンステイス

パネルディスカッション：独自で始めた場合の現実は何であるか？

バリル CEO
マッキンゼー(東京) パートナー
サイトパスファインダー 社長&CEO
モーガン・ルイス・バッキアス法律事務所 パートナー

スティーブン・バリル
マイケル・デブリン
藤田芳司
スティーブン・マヒンカ

パネルディスカッション：製品開発に関わる問題

グラスコ・スミスクライン(東京) 開発・薬事部ディレクター
クインタイルズ・トランズナショナル・ジャパン 副会長&代表ディレクター
マトソンジャックグループ Co-CEO

永田傳
大林幹彦
ビル・マトソン

午後の基調演説

バイオテクノロジー・インダストリー・オーガニゼーション (BIO) プレジデント ジェイムズ・グリーンウッド

パネルディスカッション：リクルート

コーン・フェリー・インターナショナル バイオテクノロジー&製薬部マネージングディレクター スティーブン・イスラエル
イースト・ウエスト・コンサルティング(東京) 社長 室松信子

販売と営業

ベイン パートナー
大塚製薬 執行役員

デービット・ベレアー
岩本太郎

ケース・スタディ

ビーブリッジ・インターナショナル 会長&CEO
レクメド 代表取締役社長&CEO
そーせい 代表取締役社長&CEO

榎本博之
松本正
田村 眞一

メイン スポンサー： AstraZeneca, Bristol-Myers Squibb, GlaxoSmithKline, Morgan, Lewis & Bockius, Select Greater Philadelphia
プログラム スポンサー： BioWa, Concord Search Group, Fujirebio Diagnostics, The Mattson Jack Group, NDC Health, Pepper Hamilton, Rohto-Mentholatum Research Laboratories

エアライン スポンサー： Continental Airlines